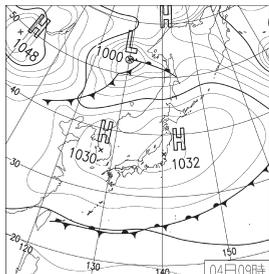


日々の天気図

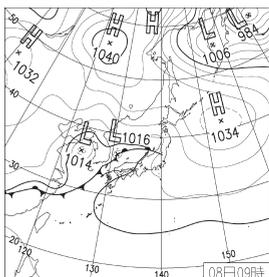
— No. 166

2015年11月

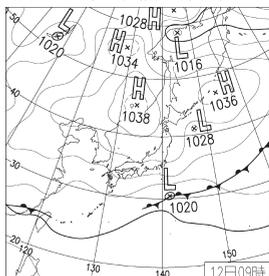
- ・火口周辺警報を13日離阿寒岳, 20日箱根山と相次ぎ解除。阿蘇山と桜島は警戒レベル3を2に引下げ。
- ・28日, 青森は史上最も遅い初雪。
- ・全国的に気温高く, 月平均気温は高い記録の11月1位27地点。
- ・大分・徳島など5地点で月間日照時間少ない記録の11月1位更新。
(気象庁予報部予報課)



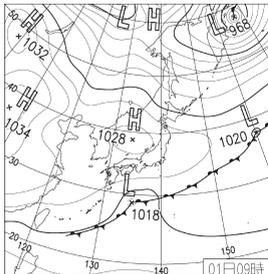
4日(水) 沖縄で非常に激しい雨
沖縄では前線の影響で曇りや雨となり, 川平で50.5 mm/1h, 西～東・北日本は高気圧に覆われて晴れ, 早朝は所々で霧。金沢, 長野, 函館市でイチョウ黄葉。



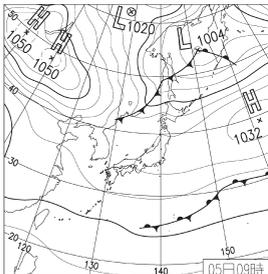
8日(日) 「立冬」全国的に雨・雪
低気圧の東進に伴って全国的に雨, 北海道は積雪も。暖かい空気流れ込んだ九州は30地点以上で11月の最高気温1位。北海道では帯広泉5 cmなど各地で積雪。稚内で初霜。



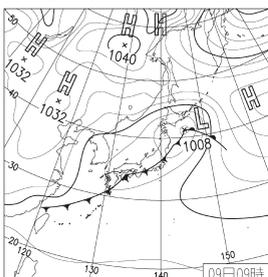
12日(木) 広く晴れる
高気圧に覆われて全国的に晴れた所が多いが, 前線に近い沖縄～九州南部は雨。晴れて冷え込んだ北日本では12月上旬並の最低気温も。山形・秋田で初霜, 山形で初氷。



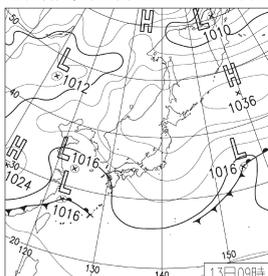
1日(日) 西日本に雨域広がる
気圧の谷が接近し天気は西から下り坂。九州は曇りのち雨, 中国・四国は晴れのち曇りて夜には雨。近畿～東日本は晴れたが夜には曇り。北日本は晴れ。



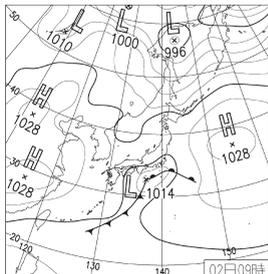
5日(木) 北海道中心に高温
沖縄・奄美は湿った気流の影響により雨。西～北日本は高気圧に覆われて概ね晴れ。北海道は所々で最高・最低気温が平年より10°C以上高くなった。函館市でオオモミジ紅葉。



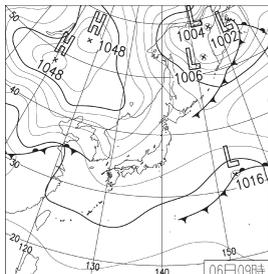
9日(月) 前線がゆっくり南下
全国的に雨や雪となり鹿児島泉島59 mm/1hの非常に激しい雨。最低気温は全国的に高く東日本では9月下旬並の所多い。長野市でカエデ紅葉。神戸, 福島市でイチョウ黄葉。



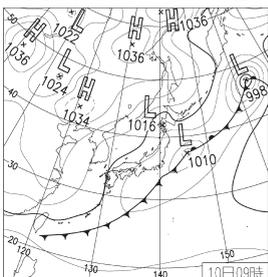
13日(金) 東日本まで雨が広がる
低気圧の接近に伴い西日本は全域で雨となり九州や四国の太平洋側では局地的に強い雨も。東日本も次第に雨が広がる。北日本は晴れ, 高知県須崎で61 mm/1hの非常に激しい雨。



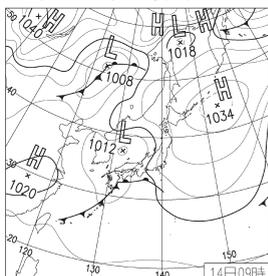
2日(月) 雨域は次第に北日本へ
発達中の低気圧が太平洋沿岸を東進, 西日本の雨は昼頃までに止むが, 朝～昼過ぎは東日本, 午後は東北へ雨域広がる。西日本では午後晴れ間も。新潟, 秋田, 札幌市でイチョウ黄葉。



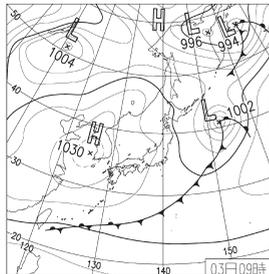
6日(金) 北海道を寒冷前線通過
高気圧に覆われ東日本中心に晴れた所多いが, 前線や湿った気流の影響で雨が降った所も。北海道は寒冷前線通過で寒気入り最高・最低気温が前日より10°C以上低くほぼ平年並。



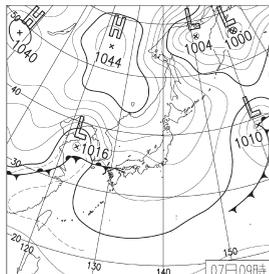
10日(火) 暖かい朝続く
天気は回復に向かうが, 前線や低気圧, 湿った気流の影響により全国的に雨が降った所が多く静岡県窪で34.5 mm/1hの激しい雨。最低気温は全国的に平年より高い。



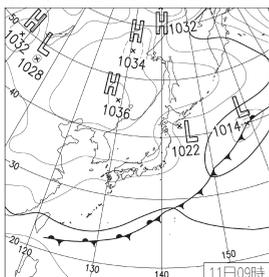
14日(土) 九州で震度4
全国的に雨。沖縄県渡嘉敷69.5 mm/1h, 四国や紀伊半島南部も激しい雨で和歌山県潮岬は日降水量174 mm, 高知県室戸岬で最大風速21.6 m/s。鹿児島県津波注意報。



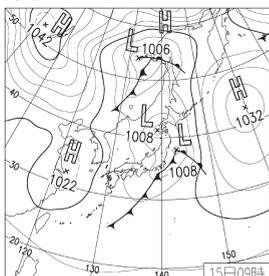
3日(火) 秋晴れ
気圧の谷が通過した北陸～東北の日本海側や低気圧の影響が残った関東で午前中を中心に曇りや雨となった以外は高気圧に覆われて晴れ。山梨県甲斐駒ヶ岳で初冠雪。



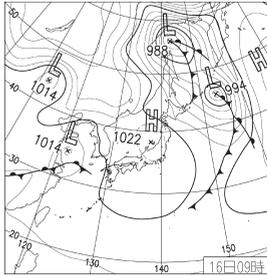
7日(土) 栃木県で震度4
黄海の前線を伴う低気圧の影響で西日本の各地で雨。西日本を中心に最高・最低気温とも平年より高いが北海道は前日よりかなり気温が下がり最高・最低気温が12月上旬並の所も。



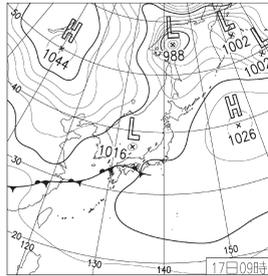
11日(水) 北日本では雨や雪
高気圧に覆われて晴れた所多いが, 寒気や気圧の谷の影響で北陸～東北日本海側や北海道など所々で雨や雪。北海道では平地でも積雪。長野県東方連山で初冠雪。



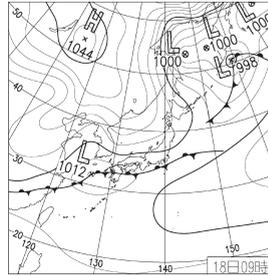
15日(日) 北日本で最低気温9月並
低気圧と前線に伴う雨雲が日本列島を東進。和歌山県栗栖川147.5 mm/1hは11月の1位。その後は西から次第に晴れ。全国的に最低気温が高く北日本各地で平年より10°C以上高い。



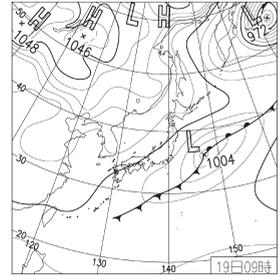
16日(月)全国的に気温高め
 日本海側で朝まで雨が降った所あったが日中は高気圧に覆われ全国的に晴れ。その後東シナ海にのびる前線の影響で西日本の一部で雨。最高・最低気温が全国的に平年より高い。



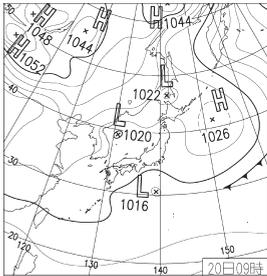
17日(火)台風第26号発生
 低気圧や前線の影響で西から雨が広がりがり夕方には全国的に雨。鹿児島県天城で78mm/1hの非常に激しい雨。最低気温は全国的に高く西日本で所々9月並。沖縄では連日の真夏日。



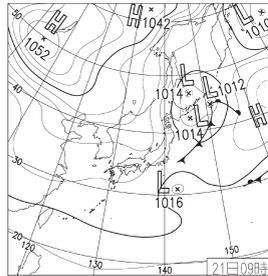
18日(水)太平洋側で強雨
 西～東日本は前線による雨。鹿児島県輝北で11月1位の47.5mm/1hの雨。最低気温は全国的に9月下旬～10月中旬並と高め。沖縄では9地点が真夏日で11月の最高気温1位も。



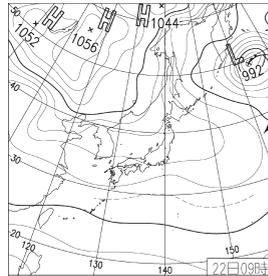
19日(木)福島県で震度4
 東日本や東北では低気圧や前線により明け方まで雨。東京都八丈島で91.5mm/1hの猛烈な雨。千葉県銚子で最大風速20.5m/s。その後は、大陸の高気圧に覆われる。



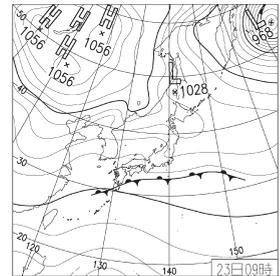
20日(金)西～北日本天気崩れる
 沖縄・奄美は高気圧に覆われて晴れ。西～北日本は低気圧や湿った気流の影響により、雨や雪の降った所多いが、西日本を中心に次第に晴れ。松江市でカエデ紅葉。



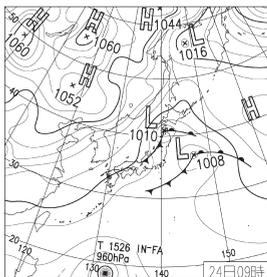
21日(土)冬型気圧配置へ
 沖縄・奄美や西～東日本の太平洋側は高気圧に覆われ晴れや曇り。山陰～北陸と東北日本海側は寒気の影響で曇りや雨。北海道は低気圧の通過により雨や雪。



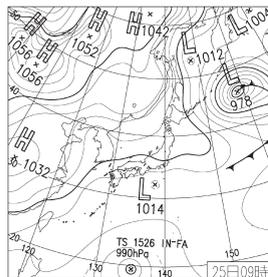
22日(日)全国的に曇りや雨
 全国的に曇りが広がり、西日本や北日本の所々で雨。西～東日本で最低気温が高く10月中旬並の所多い。北海道では日中は気温上がらず真冬日52地点。冬日は162地点。



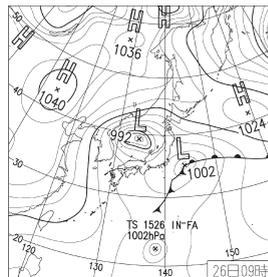
23日(月)「小雪」本州でも初雪
 晴れた沖縄を除き曇りが広がり西～東日本太平洋側は雨。北海道は曇りや雪の所多く173地点中冬日168地点、真冬日27地点と寒い一日。盛岡と函館で平年より15日以上遅い初雪。



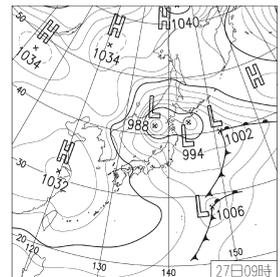
24日(火)北海道は寒く
 北海道は雪となり美瑛48cmなど11月の最深積雪1位を更新し真冬日89地点。その他は最高・最低気温とも平年より高い。山形県飛鳥30.7m/s、酒田30.1m/sの最大瞬間風速。



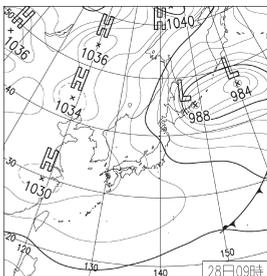
25日(水)寒気流れ込む
 低気圧や寒気などの影響により、全国的に雨や雪の降った所多い。北海道では本別-17.8℃など、11月の最低気温1位を更新した所も。福島、山形、仙台で初雪を観測。



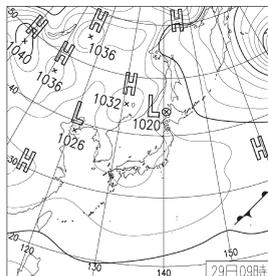
26日(木)寒気の流れ込み強まる
 低気圧の影響で西日本～東北は曇りや雨、東日本山沿いや北海道では雪。寒気の流れ込み強まり午後は西日本も山沿い中心に雪となり松江で初雪。群馬県の榛名山と赤城山で初冠雪。



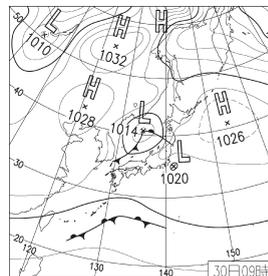
27日(金)北日本大荒れ
 強い寒気と発達した低気圧で北日本大荒れ。北海道は11月の最深積雪記録の更新多数、えりも岬で最大瞬間風速36.2m/s。西日本中心に初雪や初冠雪。台風第26号は温帯低気圧に。



28日(土)寒気の流れ込み続く
 北陸や北日本は雨や雪、沿岸部は強い風。滋賀県伊吹山で初冠雪。関東など各地で初霜や初氷。青森は統計開始から最も遅い初雪。北海道は7地点で11月の最深積雪1位を更新。



29日(日)冬型気圧配置緩む
 高気圧に覆われるが、日本海側を中心に曇りが広がり、北陸以北では弱い雨や雪が残る。沖縄や九州では西から雨雲広がる。熊谷で初氷、仙台で初霜、初氷。

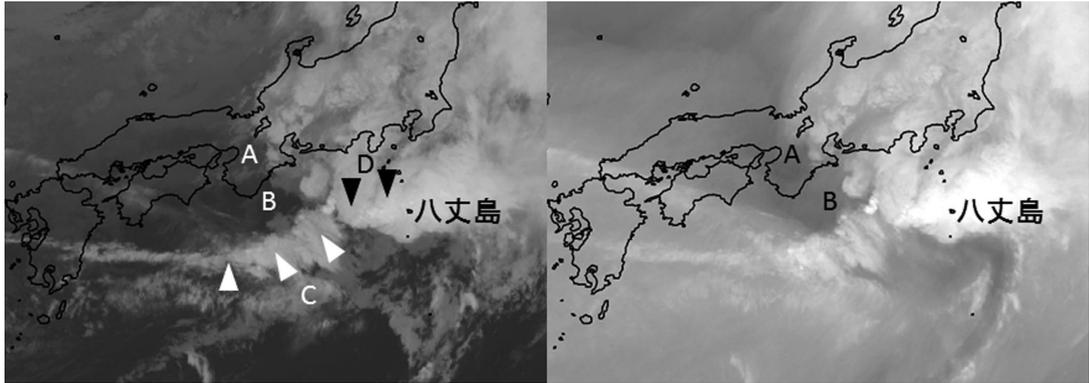


30日(月)九州でもカエデ紅葉
 日中は全国的に晴れた所多いが、沖縄～九州南部は湿った気流により所々で雨。北日本は低気圧により天気は下り坂。北海道釧路で最大瞬間風速32.4m/s。大分市でカエデ紅葉。

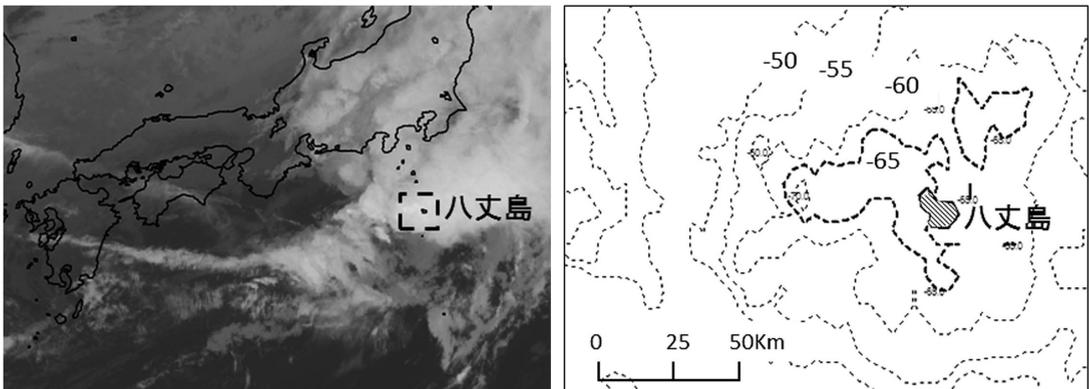


今月のひまわり画像—2015年11月

八丈島の記録的な大雨



第1図 2015年11月19日00時00分（日本時間）の本州南岸付近における赤外画像（左）と水蒸気画像（右）。記号については本文参照。



第2図 19日00時40分の赤外画像（左）と破線内の領域における赤外輝度温度の水平分布図（右、 -50°C 以下を 5°C 毎に表示）。ハッチの領域は八丈島。

2015年11月18日から19日にかけて、東海道沖に停滞した前線上を東進した低気圧の影響で、八丈島の西見で19日00時59分（日本時間）までの1時間に、11月の1時間降水量の極値となる91.5 mmの降水量を観測するなど記録的な大雨が降った。今回はこの事例について衛星画像から振り返ってみたい。第1図は19日00時00分の赤外・水蒸気画像である。記号A付近には500 hPaの正渦度極大域に対応する上層渦があり、ここから暗域Bの領域には輝度の高い雲は発生していないが、暗域の南～東の縁ではやや低気圧性に湾曲したCbライン（記号C）がある。その東端（記号D）では特に発達したCbクラスターが発生しており、八

丈島に向かって開いたV字型のような形状をなしていた。第2図は八丈島の雨がピークに達した同日00時40分の赤外画像と八丈島付近の赤外輝度温度の水平分布図である。00時00分の赤外画像と比較すると、上層渦や暗域などは東～東北東へ移動しているものの大きな変化はない。赤外輝度温度の水平分布を見ると、八丈島の西約45 km付近から東へのびる -65°C （雲頂高度約14 km）以下の領域（太破線内）が八丈島にかかり始めているのがわかる。この暗域の南～東端では、活発な対流活動が生じ、対流雲が線状に並んだと推察される。

（気象庁予報部予報課 野中信英）